様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１３７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０５１５

研究課題名（和文）近世辞書の文化史的・言語生活史的位置づけのための基礎調査

研究課題名（英文）Basic research for positioning early modern dictionary on the cultural and linguistic behaviour history

研究代表者
佐藤　貴裕（Sato, Takahiro）

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：００１９６２４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、近世に刊行・書写された辞書類について使用実態を明らかにすることにより、これまで以上に的確な文化史的位置づけが可能になるものと考え、基礎的な調査を行うものである。
　３年間にわたる調査・研究の成果として、約４０箇所の図書館・文書館の蔵書を閲覧・調査・撮影することができた。また、文書館においては、旧蔵者と辞書との関係について検討しうる可能性を見出すことができた。基礎研究の一環として辞書諸本を収集したが、古本節用集写本および通俗詩学書初版はじめ価値の高いものが得られた。現在までのところ、論文等９編、口頭発表等２編を公表した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the actual usage for the dictionaries that has been published in the early modern period. By performing the basic research, it's going to allow the precise cultural-historical positioning.
As a result of studies and research over three years, we were able to view and investigate and photograph the collection of Library and Archives of about 40 points. Further, in the archives, it was possible to find a possibility which can be investigated the relationship between the users and their dictionaries.
As part of the basic research, I bought some dictionaries. Among them, there are things of high value, as of the Middle Ages Setsuyoshu manuscripts and unknown popular poetics manual first edition. So far, there is a 9 papers and 2 oral presentations.

研究分野：国語学

キーワード：辞書史　国語史　出版史　語彙

１．研究開始当初の背景

どの時代とかぎることなく、辞書は言語生活のための作品であった。が、近世の節用集などでは日用教養記事を多く付録することとなった。このことから、近世の生活史を再構成するためのツールとして近世史・文明史・教育史・出版史などの分野からも注目されている。そこで、日本における辞書の史的変遷を扱い慣れている国語学的な立場から調査・研究をおこない、近世辞書の存在意義・史的価値にかかる研究情報を他分野へ提供する必要性があった。

２．研究の目的

これまでの２期６年にわたった科研費研究の発展として、辞書を中心とする知的行為の文化史学を構想するが、そのリード役として、言語生活研究・辞書（史）研究を擁する国語学（日本語学）が位置することが考えられる。そこで、隣接諸分野へ諸情報を提供するための準備が必要となる。この情報収集のための基礎的調査が本研究課題の目的である。

具体的には、これまでなされることの少なかった文書館等での調査を中心として、新たな異本の発見や書誌学的調査、原本の使用状況など、基礎的情報・新知見のさらなる蓄積と充実をはかることとする。同時に、総合的な把握の成果を端的に示すために、国語学的知見と隣接分野の知見とからするケース・スタディの準備を企図する。

また、原本の購入もできるかぎり行っていく。図書館などでは美本を収集しがちなため、かえって旧蔵者の使用様態が知りにくいこともあるからである。

３．研究の方法

（１）概要

近世辞書の所蔵所におもむき、原本を閲覧し、書誌学的調査等をおこなう。また、研究の効率化をはかるため、撮影も積極的におこなう。

この調査には、いわゆる書誌情報の調査のほか、旧蔵者の使用実態が知られる書き込みなどにも注意する。また、通常、辞書類の調査は図書館蔵書によることが多いが、本研究では、旧蔵者の人となりが具体的かつ効率的に知ることができるような所蔵所を積極的に利用することとした。いわゆる文書館（都道府県等地方自治体によって名称・形態・守備範囲は異なる）などでは、家ごとに文書類を収蔵するのが常であるから、そのようななかから辞書類の調査をおこなうこととした。本研究計画では九州・四国・中国地方の図書館・文書館等を優先的に調査した。

（２）年次計画

①平成 25 年度　近世辞書の基礎情報の収集を、主として九州地方の各所蔵施設での臨地調査により行う。また、旧蔵者 の社会的位相・教養程度と、所持した辞書との対応関係を明らかにするケーススタディの準備を行なう。平行して、隣接研究分野における研究進度調査を実施する。　【基礎情報の収集】近世辞書諸本の書誌情報を中心に収集・蓄積する。地域をかぎって集中的に調査することとし、25 年度は九州地方の図書館・文書館・資料館等を予定する（ただし、研究を効率的に推進するのに必要であれば、他の地域での調査もありうる）。通常の書誌的事項に加え、異版・同版・刷りの前後・書き込みなどにも目を配る。一方、未知の異本の発見にも注力し、節用集にあっては、佐藤貴裕「近世節用集刊行年表稿」『書物・出版と社会変容』６（2009・3）を基準とする。調査・研究の効率をはかるため、適宜、原本の撮影を行ない（場合によっては専門家による精度の高い撮影を行なう）、原本自体の収集も可能なかぎり行なう（これについては地域をかぎることなく、また機会を逃すことなく積極的に行なう）。　【隣接分野の研究状況把握】隣接分野での知見を集積する。日本史（近世史）・教育史・文化史などの有力学会誌・学術雑誌等につき、言語生活史にかかわる論考を収集・分類する。隣接分野での研究傾向を把握し、基本情 報調査に反映させるべき点を特定する。　【ケーススタディの準備】辞書における書き込み・署名などとともに、文書館等で作成された、家ごとの文書の管理記録などから、社会的属性・社会的地位・知的関心などを照合し、その所持していた辞書の種類との対比を 行うための準備をする。ただし、研究の能率を考えると、九州地方の文書館は整備の立ち遅れが目立つので、早くから整備・運営して、家ごとの調査・研究の蓄積と辞書の所蔵数の充実する、山口県などで準備する。

②平成 26 年度　【概要】基本的な調査は 25 年度と同様に進行するが、主対象とする地域を中国・四国地方にシフトし、ケーススタディの準備も、東日本の代表をしぼりこむための予備調査を行なう。　【基礎情報の収集】都道府県立等の図書館・文書館など、古文書の収集・管理をおこなう施設を中心として行なうが、本年度においては中国・四国地方を中心とする。それらの機関における、古文書を旧家ごとに管理・記録された位相・地位などの情報を参照しつつ、所蔵される近世辞書の各種書誌データを収集する。手法としては 25 年度と同一でなければならない。未知の異本の発見、原本の撮影、原本自体の収集も、25 年度同様、積極的に行なう。　【隣接分野の研究状況把握】　隣接分野での知見の集積を続行する。　【ケーススタディの準備】辞書における書き込み・署名などとともに、文書館等で作成された、家ごとの文書の管理記録などから、社会的属性・社会的地位・知的関心などを照合して絞り込み、その所持していた辞書の種類との対比を行う準備とする。本年度では、東日本の代表地点の選定を行う。早期に文書館を立ちあげたり、充実した研

究・所蔵のある埼玉・茨城・千葉・栃木・群馬などでパイロット調査を行なう。
③平成 27 年度　基礎情報の収集を東北・北海道地方を中心に行うこととし、ケーススタディの準備としては、東日本での文書館で行うこととし、可能であれば実際に試案を提出してみる。　【基礎情報の収集】都道府県立等の図書館・文書館など、古文書の収集・管理をおこなう施設を中心とする。本年度では東北・北海道地方を中心とする。それらの機関における、古文書を旧家ごとに管理・記録された位相・地位などの情報を参照しつつ、所蔵される近世辞書の書誌データを収集する。手法・注目点は 25・26 年度と同一とする。未知の異本の発見、原本の撮影、原本自体の収集も、25・26 年度同様、積極的に行なう。　【隣接分野の研究状況把握】隣接分野での知見の集積を続行する。ケーススタディとの同期のために、地方史文献を中心にする。【ケーススタディ試案の提示】辞書における書き込み・署名などとともに、文書館等で作成された、家ごとの文書の管理記録などから、社会的属性・社会的地位・知的関心などを照合して絞り込み、その所持していた辞書の種類との対比を行ない、まとめてみる。山口県分のほか、東日本分についても行なう。現在のところ、関東のうちの一県を予定するが、基礎情報の収集の過程で適当な県（施設）に設定できれば東北地方の一県を加える

４．研究成果
（１）辞書調査　九州・中国・四国地方を中心に３９箇所での調査を行うことができた。
①調査した辞書所蔵館
　平成 25 年度　福岡市博物館（５月）・群馬県立文書館（７月）・大分県立先哲資料館・臼杵市立臼杵図書館・京都府立総合資料館（10 月）・九州大学附属図書館・諫早市立諫早図書館・成城大学図書館（12 月）・筑波大学附属図書館（３月）
　平成２６年度　慶応義塾大学図書館・同斯道文庫（６月）、山口県立図書館・同文書館（７月）、広島大学図書館・広島県立文書館・広島市立歴史資料館・西尾市立岩瀬文庫・岡山県立記録資料館・米子市立図書館・島根県立図書館（11 月）、香川大学図書館・香川県立図書館・同文書館・岡山大学図書館・岡山県立図書館（12 月）、ノートルダム清心女子大学附属図書館・金光図書館（２月）
　平成２７年度　愛媛大学附属図書館・愛媛県立図書館・大洲市立図書館・東温市歴史民俗資料館（４月）、岡山県立記録資料館（７月）・弘前市立図書館（10 月）・鹿児島大学附属図書館・鹿児島県立図書館（12 月）、岩国徴古館・岩国学校教育資料館・岩国市中央図書館・呉市立図書館（２月）
（２）調査成果（特記すべきもの）
①深化すべき調査箇所の選定　上記所蔵所での調査の結果、辞書とその使用者とのかかわりが検討可能な例について、群馬県立文書館・岡山県立記録資料館・山口県立文書館・香川県立図書館の古文書類が適格であるとの見通しが得られた。
②異版の存在　『真草二行節用集』慶安４年孟冬版に２種あり、２種の雑糅版の存在を確認した。『倭漢節用無双嚢』天明４年版・『大日本永代節用無尽蔵』嘉永２年版の巻頭付録部における部分的改刻のある各２種のあることを確認した。『〔世用万倍〕早引大節用集』に３種５版（１種は他２種の雑糅本に新版を交えたもの）の存することを確認した。
（３）辞書および関係資料収集
①年度別概要
　平成２５年度　節用集（17 世紀刊行２本、18 世紀刊行本 11、19 世紀刊行本 12）、漢字字典（７本）、韻字書（７本）、詩作辞書（５本）、特定書籍字引（２本）、その他参考資料（４本）を得た。このうち、詩作辞書では、これまで改編増補版のみ知られていた『詩文重宝記』元禄初版を得、この時期の通俗的詩文作成書の破綻的な編集方法などを明らかにできた。また、古本節用集の新出写本を得た（後述②）。
　平成 26 年度　節用集２０点、詩文作成参考図書等資料５点、その他３点であった。このうち、節用集では『年代節用集万宝大成』『永代節用重宝無尽蔵』『宝山節用万字図彙』『大全早引節用集（『〔増字百倍〕早引節用集』『早引残字節用集』合綴本）』『倭節用集悉改嚢（文政元年、初刻本）』など、伝本が極端に少ないものが得られた一方、詩文作成参考図書では『韻鏡』（寛永５年）『翰墨全書』（寛永 21 年）『国花集』（寛永 21 年同版）『大広益会玉篇』（慶安２年刊同版）など近世極初期刊行書が集まり、両者相俟って価値の高い収集をすることができた。
　平成 27 年度　節用集は７点にとどまったが、『真草二行節用集』（イ部標目「以」字本異版）』『急用間合即座引』（美濃判合冊体）のように他には認めがたいものや、『万花節用字林大成』『早字節用』（文政 14 年版）『（真草両点）数引節用集』（非薄葉）など比較的所蔵者の少ないものを収集しえた。このほか、詩作系刊本５点（『韻会捷見』『漢和三五韻』など）、漢和字典４点（『倭玉篇』２点、『大広益会玉篇』２点を得た。このうち、）『大広益会玉篇』の１本は寛永８年刊ながら既収の同年記刊本とは別版であり、今後の検討がまたれる。
②新出の古本節用集写本　これについては、旧蔵者の教示により、本書が浄土真宗大谷派暎芳寺（岐阜県高山市内）に関わること、長らく高山市内に伝えられたらしいことの教示を受けた。系譜上は、各部乾坤門の国名群と一般語群のあいだに和歌名所（歌枕）を配することから、伊勢本であり、なかんずく、『増刊下学集』（天理図書館蔵）および『増刊節用集』（広島大学蔵）の一類であることを確認しつつ、双方の中間的性格を有することを明らかにした（国語語彙史研究会（25 年

９月 28 日）にて発表)。さらに、臼杵市立臼杵図書館蔵・稲葉家本『節用集』とも相近い性格であることを確認した。中世から近世に移行する過程での節用集諸本のありようの一端を知り得た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　9　件）
1 佐藤貴裕，節用集の付録による教養形成研究のための覚書，（井上泰至編）近世日本の歴史叙述と対外意識（仮題）（勉誠出版），ページ未定（掲載確定），2016，査読無
2 佐藤貴裕，節用集展開史の後景，文学（隔月刊）16-5（岩波書店），pp.33-47，2015，査読無
3 佐藤貴裕，辞書から近世をみるために――節用集を中心に―，本の文化史２（平凡社），pp.127-163，2015，査読無
4 佐藤貴裕，節用集の辞書史的研究の現況と課題，日本語の研究 11-2，pp.119-132，2015，査読有，
http://ci.nii.ac.jp/naid/110009988720
5 佐藤貴裕，易林本『節用集』版本研究覚書――匡郭考――，近代語研究 18（武蔵野書院），pp.71-90，2015，査読無
6 佐藤貴裕，柏原司郎著『近世の国語辞書　節用集の付録』（書評），國學院雑誌 115-6，pp.38-45，2014，査読無
7 佐藤貴裕，古本節用集の対利用者意識・試論，国語語彙史の研究 33（和泉書院），pp.17-31，2014，査読有
8 佐藤貴裕，（資料紹介）『詩文重宝記』解説と影印，国語文字史の研究 14（和泉書院），pp.187-233，2014，査読無
9 佐藤貴裕，近世節用集史の俯瞰のために，近代語研究 17（武蔵野書院），pp.99-119，2013，査読無

〔学会発表〕（計　2　件）
1 佐藤貴裕，節用集の展開と知（招待講演），日本文芸研究会，東北大学文学部第１講義室，平成 27 年 06 月 06 日
2 佐藤貴裕，伊勢本系増刊本類新出『節用集』とその意義，国語語彙史研究会，立命館大学衣笠キャンパス清心館３階，平成 25 年９月 28 日

〔その他〕
ホームページ等
http://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤　貴裕（SATO,Takahiro）
岐阜大学・教育学部・教授
研究者番号：00196247